

篠塚正宣先生を偲んで

山崎 文雄

●千葉大学 名誉教授

構造信頼性工学の世界の第一人者である篠塚正宣先生が2018年11月5日に87歳でご逝去されました。篠塚先生は米国のコロンビア大学、プリンストン大学、南カリフォルニア大学、カリフォルニア大学アーバイン校などの教授を長年にわたって務められ、先生の薫陶を受けた教え子は、世界中の大学や研究機関などで活躍しています。日本との関係も深く、百人を超える日本人研究者や留学生の受け入れ・指導教員を務められ、筆者も清水建設大崎研究室に在職中の1984年から2年間、コロンビア大学に留学し先生にご指導いただきました。日本の企業や大学との共同研究も多数行われたほか、1990年には東京に株式会社篠塚研究所を創設し、その代表取締役社長、会長、名誉会長などを歴任されました。また、日本地震工学会の名誉会員にも選出されています。

篠塚先生は、1930年12月23日に東京でお生まれになりました。日本では平成になってから、自分の誕生日が祝日になったとよくおっしゃっていました。1953年に京都大学工学部土木工学科を卒業され、同55年に修士課程を修了されました。その後、フルブライト留学生として米国に渡られ、1960年にニューヨーク市のコロンビア大学でA. M. Freudenthal教授に師事し Ph.Dの学位を取得されました。同大学で助教授、准教授を経験された後、1969年に教授に昇進し、1988年までRenwick栄誉教授などを務められました。1978年には米国工学アカデミー会員にも選出されました。1988年にはプリンストン大学の教授に移られるとともに、90年から92年の間は、米国地震工学研究センター (NCEER) の所長も併任されました。93年には米国土木学会 (ASCE) の名誉会員に選出され、95年には南カリフォルニア大学教授、2001年にはカリフォルニア大学アーヴァイン校教授、さらには2013年にはコロンビア大学に教授として再び戻られ、2016年まで在職されました。先生のように80歳を超えるまで現役教授として第一線で活躍されるのは米国でも例外的であり、我々教え子も、ことあるごとに篠塚先生を頼りにしていました。

篠塚先生の研究業績を1ページで紹介するのはほぼ不可能で、筆者も全てを知っている訳ではありません。先生が一番長く在職したコロンビア大学では、教え子のG. Deodatis教授が現在、土木工学科の学科長を務めており、そのWEBサイトに追悼文が掲載されています。篠塚先生

の最大の研究業績は、信頼性工学の先駆者として、確率論を構造工学分野に導入したことが挙げられます。早くからコンピュータ・シミュレーションを取り入れ、モンテカルロ法を様々な問題の解法に導入しました。地震や風などの外力のモデル化、リスク評価、システム同定、ライフライン系の信頼性などの分野で世界の指導的役割を果たされたほか、センサ技術やリモートセンシングなどの先端技術にまで研究領域を広げられました。新しい研究に取り組もうという姿勢がいつまでも旺盛で、多くの若い人達が先生の周りに集まってきました。

篠塚先生が共同議長などの要職を常に務められた会議に「構造物の安全性と信頼性に関する国際会議 (ICOSSAR)」があります。筆者も先生との縁で、1985年の神戸会議以来、1989年サンフランシスコ、1993年インスブルック、1997年京都、2001年ニューポートビーチ、2005年ローマ、2009年大阪、2013年ニューヨーク、2017年ウィーンと9回連続で出席しました。2013年のニューヨーク会議では、韓国KAISTのC. B. Yun教授、関西大学の古田均教授、東大の高田毅士教授、筆者などの教え子が篠塚先生に夕食に招待され楽しい一時を過ごしました。その4年後のウィーン会議では、初めて先生の姿にお目にかかることができず、Deodatis教授やA. H-S. Ang先生から、篠塚先生が体調を崩されていると伺いました。心配になり、その2か月後の2017年10月に高田教授と2人でニューヨークを訪問しました。無事先生とお会いすることができ、先生も大変喜んでくれたことは忘れられません。

残念ながら篠塚先生は、その約1年後にご逝去されました。わずか数年前まで現役だったため、訃報に驚かれた方も多いと思います。本年2月には東京で、4月にはニューヨークで先生を偲ぶ会も開かれました。偉大で優しい篠塚先生を慕う者の1人としてご冥福を祈るとともに、世界各地の先生の弟子・孫弟子の皆さんの一層の活躍を祈念いたします。

